

近畿中国森林管理局技術開発目標

昭和55年8月4日付け55大監第5号

[最終改正] 平成31年3月28日付け30近普第98号

近畿中国森林管理局において行う技術開発の合理的かつ効率的な推進を図るため、近畿中国森林管理局技術開発実施要綱（昭和55年8月4日付け大監第5号）第2の1に基づき、本目標を定める。

1 技術開発の推進方向

近畿中国森林管理局における技術開発については、国有林野の管理経営に関する基本計画を踏まえ、多様な森林とまとまりあるフィールドを有し、公益重視の管理経営や林産物の安定供給を行ってきたという国有林野事業の特性を活かし、民有林における公的管理や林業経営での活用を念頭に置き、公益的機能の高度発揮や林業の低コスト化等に資する技術開発、特に実用段階に到達した先駆的な技術や手法の実証について、森林技術・支援センターを中心として、産学官連携の下に、より一層推進することとする。

また、課題の設定に当たっては、既往の研究成果との重複を排除するよう留意する。中間・完了時点での評価は、他の課題にも活用・反映させることにより、それぞれの課題の成果が早期かつ着実に実用化に結びつくように努める。得られた成果については、広く周知することで、国有林野事業のみならず、民有林における普及・定着に資するよう取り組むものとする。

さらに、試験研究機関等からの長期的視点に立ったモニタリング、データ収集などの要請に対して、持続可能な森林経営や地球温暖化防止対策等の課題を踏まえた上で、国有林野事業の特性を活かした積極的な協力に努めることとする。

2 技術開発目標

以上を踏まえ、林業の低コスト化等に関する目標として(1)を、機能類型区分に応じ公益的機能の高度発揮を図るための森林施業等に関する目標として(2)を、また、効率的な森林管理全般にわたる目標として(3)を設定する。

(1) 林業の成長産業化に資する造林・保育・生産技術の確立

国有林野事業の特性を活かし、民有林においても活用可能な林業の低コスト化等に向けた技術や手法について、先駆的な取組を事業レベルで試行することにより、

- ① 低密度植栽、特定母樹や早生樹等の成長に優れた苗木の活用、伐採と造林の一貫作業システム、下刈等保育作業の効率化等の低コスト造林手法
- ② ICT(情報通信技術)等の先端技術を活用した効率的な木材生産手法
- ③ 効率的な列状間伐手法、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システム
- ④ エネルギー利用等、木質バイオマス資源の有効活用に向けた未利用間伐材等の収集・運搬手法

等の技術の確立を図る。

また、得られた成果については、民有林と連携した現地検討会等による情報発信や地域での実用化に向けた検討を行う等して、普及・定着に努める。

(2) 公益的機能の高度発揮のための森林施業及び保全技術の確立

国有林野の機能類型区分（「山地災害防止タイプ」、「自然維持タイプ」、「森林空間利用タイプ」、「快適環境形成タイプ」、「水源涵養タイプ」）に応じた公益林としての管理経営を推進するとともに、民有林での公益的機能の発揮にも資するため、

- ① 種の多様度・階層分化を低下させない天然林の管理手法
- ② 長伐期、人工林における広葉樹の導入による育成複層林への誘導及び林床植生の保全に適した施業方法
- ③ 環境保全に配慮したモザイク状等の小面積皆伐や伐採後の更新等の施業方法
- ④ 野生動植物との共存に向けた森林整備手法
- ⑤ 遺伝資源の適切な維持・保存や保護林のネットワークの形成等の生物多様性保全手法
- ⑥ 優れた自然景観の維持、森林の保健・教育的利用手法
- ⑦ 文化財保全や伝統文化の継承への貢献に向けた対策

等の技術の確立を図る。

(3) 効率的な森林管理及び健全な森林の育成技術の確立

森林の機能類型区分にかかわらず、効率的な森林管理、健全な森林の育成を実現するため、

- ① ICT等の先端技術を活用した効率的な森林資源情報の把握や森林管理手法
- ② 天然力を活用した森林育成技術、里山林の管理・活用手法
- ③ 気象害・病虫獣害の効果的防止対策

等の技術の確立を図る。